

# トビイロウンカ 防除は、 3適+1で!

3適+1って?

<b>3適</b> (県発表の処理時期)	<b>適剤</b> (アルバリン スタークルメイト)	<b>適量</b> (ラベル記載の使用量)
-------------------------	----------------------------------	--------------------------

+1 ウンカがひそむ株元まで製剤を届けるていねいな散布!

3適+1に使用できる製剤

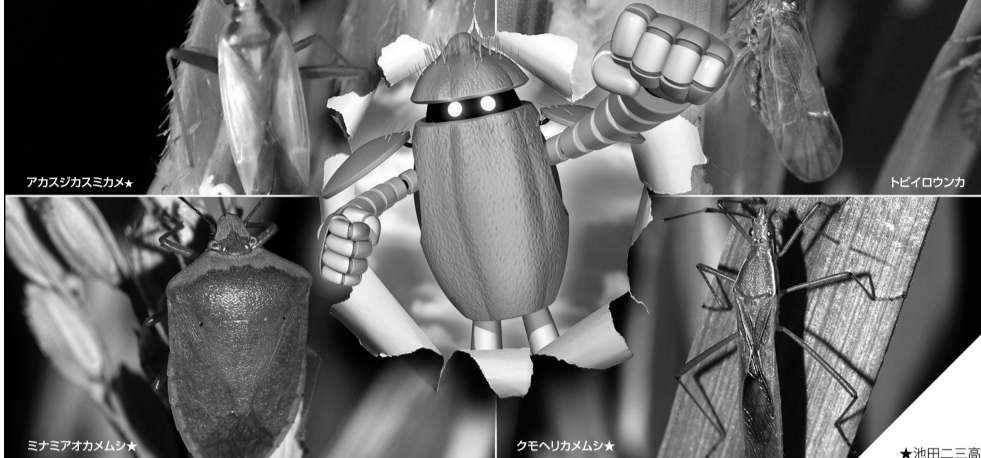
## 三井東庄 アルバリン<sup>®</sup> 顆粒水溶剤 粒剤/粉剤DL スタークルメイト<sup>®</sup> 液剤10

スタークルメイトは三井化学クロップ&ライフソリューション株式会社の登録商標です。アルバリンはアグロ カネシヨウ株式会社の登録商標です。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届くところには置かないでください。●防除日誌を記録しましょう。

**三井化学クロップ&ライフ  
ソリューション株式会社**  
東京都中央区日本橋1-19-1日本橋ダイヤビルディング  
ホームページ <https://www.mc-croplifesolutions.com>

## ウンカ類に! 吸汁性害虫防除のスペシャリスト!



★池田二三高氏撮影

### エクシード<sup>™</sup> 粉剤DL

Isoclast<sup>™</sup> active

水稲用殺虫剤

### エクシード<sup>™</sup> フロアブル

Isoclast<sup>™</sup> active

水稲用殺虫剤

水稲の大敵、既存薬剤の効きにくくなったウンカ類も、スルホキシミン系のユニークな殺虫作用でしっかり防除! 吸汁性害虫防除のスペシャリストが、速効力と持続力でお米作りをサポートします。

### イソクラスト普及会

日産化学(株) 日本農業(株) 北興化学工業(株) コルテパ・ジャパン(株)\*

\*事務局: 東京都千代田区永田町2丁目11番1号



「ストレッチ」  
症状のご紹介

TM コルテパ・アグライエンスならびにその関連会社商標

企画・制作/日本農業新聞 広告部

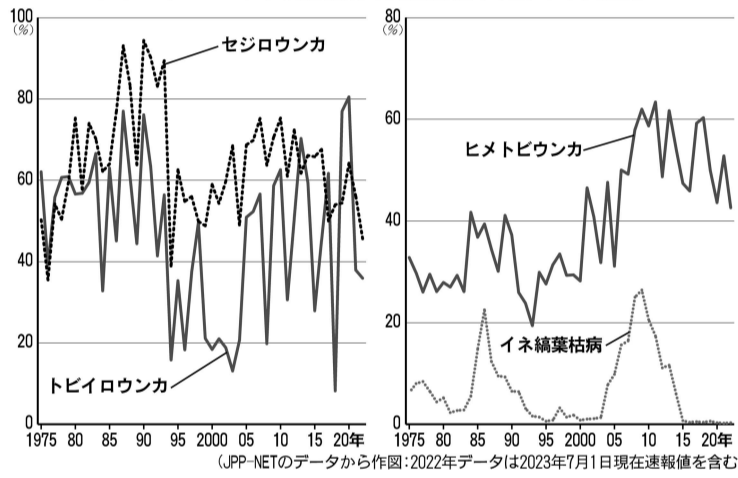
トビイロウンカとセジロウンカは、冬に稲がなくなる日本では越冬できない。冬に稲があるベトナム北部・中部で越冬したこれらのウンカは、春先に中国南部に移動して1、2世代増殖し、毎年梅雨の時期に梅雨前線に沿って吹く強い南西風(下層ジェット気流)に乗って日本に飛来する。

## ウンカ類の飛来状況

ウンカ類の飛来量は、飛来源での発生量と梅雨時期の気象条件によって大きく変動する。中国南部の今年の早稲作でのウンカ類の発生量は、昨年と概ね同程度であるが、一部地域で多発生となっている。今年の梅雨入りは、九州北部は5月29日頃、南部は5月30日頃で、北部では平年並

みであった。ウンカ類の飛来状況については、九州地域で5月上旬にトビイロウンカ、6月下旬にトビイロウンカの初誘殺があり、その後、7月中旬まで複数回の飛来があった。今後も梅雨前線が活発化することがある。ヒメトビウンカについては今年も目立った飛来は見られなかった。

図 九州地域でのトビイロウンカとセジロウンカの発生面積率(左)とヒメトビウンカ・イネ縞葉枯病の発生面積率(右)の年次変動



図(左)にセジロウンカ、図(右)にヒメトビウンカとイネ縞葉枯病(ヒメトビウンカの九州地域の発生面積率の1975年以降の推移を示した。セジロウンカの昨年の発生は、おおむね平年並みか、やや少発生であった。ヒメトビウンカの九州地域の発生は、この10年、高い値で推移しているが、イネ縞葉枯病の発生は2015年以降ほとんどない。

水稲害虫のウンカ類には、日本で越冬できないが、毎年梅雨の時期に中国南部の広東省などから飛来するトビイロウンカ・セジロウンカ、日本全土で越冬し土着しているが、中国東部の江蘇省などから九州地域にまれに多飛来するヒメトビウンカがいる。九州地域ではウンカ類の飛来量

が多いため、水稲栽培の後期に多発生して、大きな被害をもたらすことがある。このように、トビイロウンカ・セジロウンカ・ヒメトビウンカは、年変動が大きいものの、本種の発生は2005年以降増加傾向にある。

特に20年は、最近20年間で最も多い発生となった。一方、昨年は飛来量が平年並で、栽培後期の急激な増殖もなかったことから、九州全域で平年並みかやや少発生となった。しかし、本種の発生は年変動が大きく、予測が難しいことから、今年も各県の病害虫防除所が発表する発生情報などを参考に、早めの対策を心がける。

## 早めの対策心がけよう

ここでは、ウンカ類の最近の発生動向と今年の防除対策のポイントを解説する。

## 長距離移動性ウンカ類の発生動向と防除のポイント

毎年、九州地方などでは長距離移動性ウンカ類の飛来量が多く、警戒を怠ることができない。ウンカ類に効果のある水稲育苗箱施用剤による防除が浸透してきたが、効果が低下する収穫前の時期はウンカ類の飛来状況に応じて追加の防除が重要となる。そこで今回の特集では、農研機構の真田氏に最新の長距離移動性ウンカ類の発生動向と防除のポイントについて解説してもらった。

## ウンカ類の長期的な発生動向

図(左)に、トビイロウンカ・セジロウンカ・ヒメトビウンカは、年変動が大きいものの、本種の発生は2005年以降増加傾向にある。

新登場

水稲用殺虫剤

# オーケストラ<sup>®</sup>フロアブル



奏でよ、新ウンカ防除の第一章!!

用途に合わせて選べるオーケストラシリーズのラインナップ!

- 殺虫剤 **オーケストラフロアブル** (ウンカ類)
- 殺虫剤 **オーケストラスタークルエア** (ウンカ類、カメムシ類)
- 殺虫殺菌剤 **オーケストラロムダンモンカットエア** (ウンカ類、チョウ目害虫、紋枯病)
- 殺虫殺菌剤 **オーケストラロムダンモンカット粉剤DL** (ウンカ類、チョウ目害虫、紋枯病)

## 新しい作用性で、 ウンカ類を強力防除!



WCS用稲<sup>\*</sup>  
にも使える!

オーケストラ  
特設ページ



新しい作用性や  
登録内容は  
こちらから



(写真はイメージです)

●使用前にはラベルをよく読んでください。  
●ラベルの記載以外には使用しないでください。  
●本剤は小児の手の届く所に置かないでください。

**NICHINO**  
日本農業株式会社

\*「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」に記載。但し、オーケストラロムダンモンカットエアの無人航空機散布を除く。